

《 2月 マーケット概況 》

資産クラス	指数	12月	1月	2月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	17,450.77	17,674.39	18,797.94	6.36%	7.72%
	マザーズ指数	909.67	884.90	880.65	-0.48%	-3.19%
外国株式	S&P500	2,058.90	1,994.99	2,104.50	5.49%	2.21%
	MSCI Europe	1,608.15	1,606.97	1,705.44	6.13%	6.05%
新興国株式	上海総合指数	3,234.68	3,210.36	3,310.30	3.11%	2.34%
	ムンバイ SENSEX	27,499.42	29,182.95	29,361.50	0.61%	6.77%
海外金利	米政策金利	0.25	0.25	0.25	-	-
	米国債 10年	2.17	1.64	1.99	-	-
国内金利	政策金利	0.10	0.10	0.10	-	-
	10年物国債	0.33	0.28	0.34	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	119.78	117.49	119.63	1.82%	-0.13%
	ユーロ	144.85	132.65	133.94	0.97%	-7.53%
コモディティー	ICE 原油(先物)	59.19	53.95	62.58	16.00%	5.73%
	COMEX 金(先物)	1,184.90	1,279.20	1,213.10	-5.17%	2.38%
不動産	東証 REIT 指数	1,897.92	1,886.51	1,905.61	1.01%	0.41%
ヘッジ・ファンド	HFRX 指数	1,218.41	1,214.91	1,239.41	2.00%	1.72%

データ出所: BLOOMBERG

◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

[2月の金融市場]

先進各国では株高、債券安、ドル高の動きとなりました。懸念材料であったギリシャの財政支援の延長が決定したことから、リスクを積極的に取りに行く動きが見られました。日本では、農協改革や TPP 合意見通しが報道されたことにより、アベノミクスが実行フェーズに入ったことが好感され、海外勢による株買いが積極的になりました。日経平均株価は勢い良く上昇し、前月末比+6.36%の1万8,797円で2月の取引を終えました。

大型株は年金資金や海外勢の資金流入で堅調であるものの、マザーズ指数は前月比マイナスとなるなど、小型株はさえない展開が継続しています。3月末までIPOが多くあるため、小型株のさえない展開は3月末まで続くと思われます。

[今後の見通し]

これまで伸びが見られなかった日本の輸出ですが、ここ最近では輸出数量が増加し始めています。4QのGDPも漸くプラス成長となりました。消費増税で完全に腰折れとなった日本経済ですが、再び景気拡大に入りました。米国では原油安が消費支出の拡大に貢献し始めています。欧州の経済指標も予想ほど悪くありません。世界中で金融緩和が行われているのも手伝って、世界は景気拡大に向かいつつあります。

しかし、世界中で一気に株が買われる展開に「緩和マネー頼りの景気回復などすぐに終わる」など、ダウンサイドリスクを懸念する声もあります。しかし、経済指標を見ていると实体经济はそれ程弱くないように見ると共に、将来の展望も徐々に明るいものになりつつあるように思います。日本で言うなら、原油価格の下落や輸出の増加などにより、企業の収益が改善し、将来の国内消費が増えるような展望を描くことが出来ます。

不安材料としては TPP が挙げられます。米国議会がオバマ大統領に交渉権限の委譲を行わないようで、このままだと合意ができない状態となっています。9日から15日までハワイで協議があり、その後閣僚会議の日程が決められるようです。一先ずはその協議に注目です。また補助金支給企業からの献金問題により、国会が空転するリスクも考慮しておきたいですが、TPP、献金問題共に株価を長期的に下押す材料とはならず、下押した場合、押し目買いのチャンスになると考えられます。

◆◇ オルタナティブ(ヘッジファンド) ◇◆

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社(HFR)が運用成績を指数化した「ヘッジファンドインデックス」によると、2014年はマイナス0.6%と非常に厳しい結果となりました。さらに2015年1月に入っても厳しい状況が続いていましたが、ようやく2月に入って回復の兆しが見えてきました。

2014 年前半は株式等のボラティリティの低下に悩まされ、後半からは石油や天然ガス等のエネルギー市況の急落が運用の足を引っ張りました。特に石油価格の下落は新興国経済に影響を及ぼす懸念から、これらの株式や通貨の下落は著しく、ロシア RTS 指数やルーブルにおいては 50%以上の下落を示しました。より高い運用成果を狙い、新興国へ利益の源泉を求めたヘッジファンドへの影響は決して少なくはありませんでした。さらに 1 月には、スイス国立銀行がスイスフランの対ユーロでの上限維持を突如撤廃。これにより、レバレッジをかけて「フラン売り」のポジションを有していた資産家のマイケル・プラット氏が率いるファンドが閉鎖に追い込まれたり、エベレストキャピタルの創業者が運用するファンドが 1000 億円近くの運用資産を失ったりと、突然の出来事に対応しきれないファンドは極めて厳しい現実と向き合わざるを得ませんでした。

しかし、一方でマクロ・CTA といった戦略のファンドは好成績を上げています。アメリカやドイツ等の株式市場が史上最高値を更新したことや、金利の低下等が運用に貢献したと思われます。HFR 社が示す 2014 年のマクロ戦略の成果はプラス 5.3%で、月次でも 9 か月連続のプラスを記録し、すべての戦略をリードしました。

尚、日本市場を中心に運用するファンドも、プラス 5.2%の成果を上げました。好調な株式市場を背景に、ここでもマクロ戦略が活躍したようです。

このような中、三井住友信託銀行は 2 月 20 日、ロンドンを拠点とするヘッジファンドのマン・グループとの提携を発表しました。マン・グループは高度な運用手法を駆使した多様な商品を揃え、723 億ドルに上る資産を有するまでになった世界有数のヘッジファンドです。優良なオルタナティブ商品を日本の投資家に提供する事に加えて、共同開発する日本株関連の商品を欧米の投資家に販売すること等を目的としています。この両社の提携により、投資家はヘッジファンドへ投資するチャネルが増えて、さらに有用な資産の保有が可能になります。運用の幅が広がり、より高く安定した成果を求める投資家にとっては朗報と言えるでしょう。

【ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績】

	2015 年 年初来	直近月別		2014 年
		2 月	1 月	
ヘッジファンド・インデックス	1.7%	2.0%	-0.3%	-0.6%
株式ロング・ショート	1.6%	2.3%	-0.7%	1.4%
イベント・ドリブン	1.1%	2.7%	-1.6%	-4.1%
レラティブ・バリュー	1.8%	2.0%	-0.2%	-3.1%
マクロ	2.7%	0.7%	2.0%	5.3%
CTA	3.3%	-0.1%	3.4%	3.2%

データ出所: HFR 社

今日の相場の格言は？ その2

昨年8月掲載の『今日の相場の格言は？』に続き、今回はその第二弾です。

「明日、〇〇株式を成行で□□,000株買う！」と、意気込んで眠りに就くも、翌日の想定外な気配を目の前に躊躇してしまい、寄りの安値を逃してしまふ。このような事は、株を取引きされる方なら一度は経験した事があるでしょう。

投資において、最大の決め手となるのは銘柄選びもさる事ながら、売買における決断であると言っても過言ではありません。しかしその決断が最も難しく、いざという時、行動に踏みきれず悔しい思いをされた方も少なくはないはずで

す。「株を買うより時を買い」という格言がありますが、そんな投資家心理を見事に突いています。

今回も、投資のヒントとなる「格言」をいくつかご紹介致します。

☆一寸待て、飛びつき買いと狼狽売り

文字通り、上がっている理由をよく確認せず、衝動的に買いにいふ事や、何か突発的な出来事が起こり、パニックとなった状態で売りにいく行為は、良い結果をもたらす事が少ないので、少し考えましようという戒めです。

☆売り買いは腹八分

この格言には2つの意味があります。

一つは、買った株(空売りした株)が上がり(空売りの場合は下がり)、利食いする際には程々の利益で手じまえという内容です。高値・安値は狙って当てられるものではなく、そうこうしているうちに売りそびれる(買いそびれる)事があると説いています。

もう一つは、新規に売り買いをする場合は手元の資金の8割以内にしておくべきだという教訓です。決して、全財産を投げ打って投資をしてはいけないという教えです。

☆買い上手より売り上手

この格言には2つの意味があり、一つは一般的に下げ相場は上げ相場より短期間である事が多い為、売り(空売り)上手の方が効率的であるという意味です。

二つめは、買いよりも、売る事や売り時をよく考えろという意味です。比較的、売る事よりも買う事に意識が向きがちではありますが、利食いや損切りを伴う売りの方が心理的に難しく、売りが上手になって一人前と言われる事。

☆買いの迷いは見送り、売りの迷いは即刻売り

「買いの迷いは見送り」とは文字通り、買うか否か迷ったならば見送る事です。買わなければ新たに損失が生じる事はありません。

一方、既に買いポジションを持っている状態で、売りの迷いが生じた時の見送りは、場合によっては命取りとなりかねません。そのため即刻売却し、頭を冷やす事が重要であると説いています。

☆相場の器用貧乏

器用貧乏とは、なまじ器用であるために、あちこちに手を出し、どれも中途半端となって大成しないことを言いますが、これは相場でも言えるようです。

小手先を利かせ、日々売ったり買ったりする事で小幅な利益は上がるものの、大きな利益は上がらないという意味です。ある程度中長期で、どっしりと構えて投資をすべきであると説いています。

☆損せぬ人に儲けなし

これは投資の基本とも言える事ですが、リスクとリターンは常に裏表の関係にあり、大きな利益を得たいと思えば、それ相応のリスクを負う必要があるというものです。

もちろん、時として失敗する事もあるでしょうが、それを恐れていては何も出来ないと言う格言です。

☆上り坂の悪材料は買い、下り坂の好材料は売り

相場が上昇トレンドの時は、悪材料が出て多少下がっても、上がる過程で買えていない人にとって良い押し目買いのタイミングです。一方、下降トレンドの際は、好材料が出て上がったとしても、これまで中々売り抜けなかった人には、絶好のポイントとなる事があります。

株式投資において、逆張りが有効な場合は多いですが、時にはトレンドに逆らう事なく売買をする事も重要な手段です。

☆利食い金には休養を

売り買いが思惑通りにいき、利益があがった時はとても気分が良く、直ぐに次の取引を始めたくくなります。しかし相場とは、大きく儲かった後には大きく損する事も多いものです。利益が上がる時は、相場が変動している事が多く、一度冷静になり、ゆっくりと次の投資機会を探すことも重要です。

☆若い相場は目をつむって買え

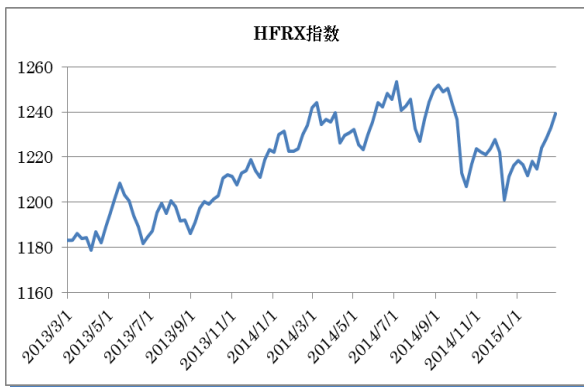
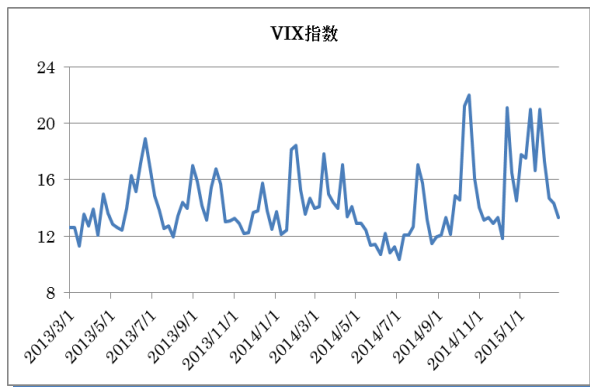
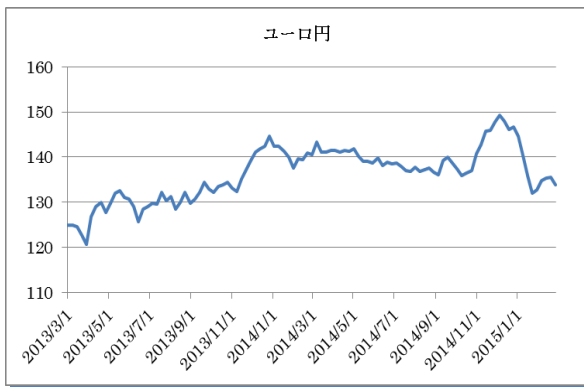
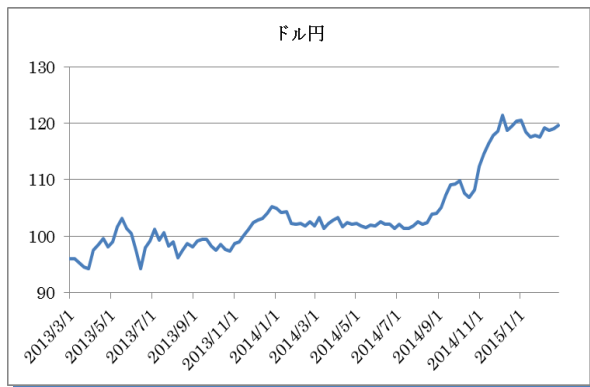
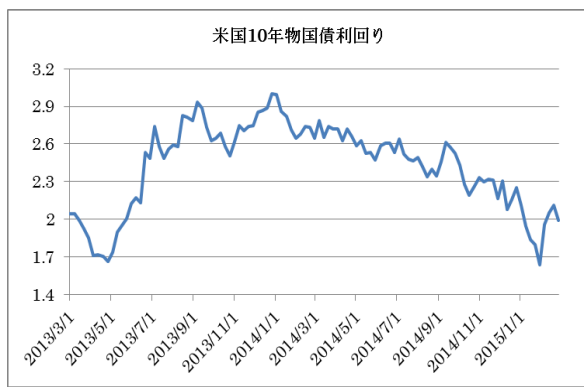
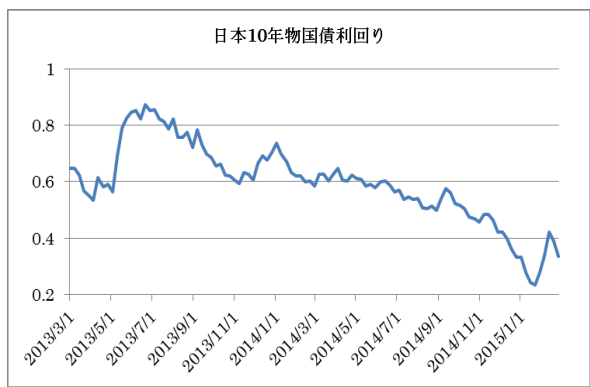
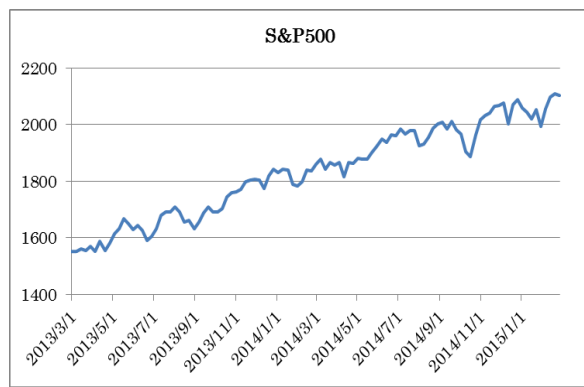
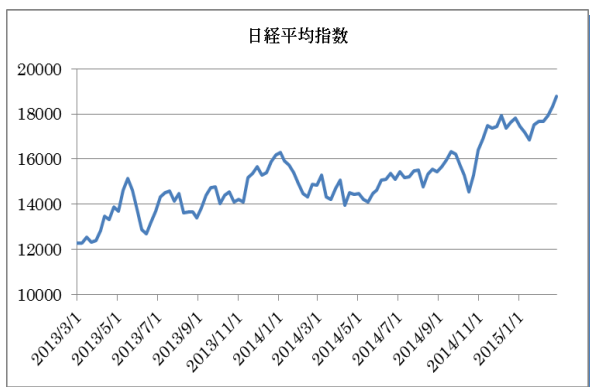
長らく、底値で推移していた株が徐々に上昇してくると、その過程で売りが出尽くし、上値にシコリがなくなる事があります。そんな株は上向いていく事が多い為、多少の上下があろうとも気にせず、目をつむって買っていけという格言です。

今回の格言にも、日々の取引に役立つものがあるように思いますが、いかがでしょうか。

しかし、ここで納得できたからと言って、実際に活かせるかと言うと別問題です。日頃からしっかりと目先の相場に左右されない投資スタンスを保持することも肝要です。

コンサルティンググループ 金井 良記

◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 … 小川 英幸

オルタナティブ(ヘッジファンド) … 樋爪 功次

そうだったのか!「知って納得、証券投資」Vol.67 … 金井 良記
今日の相場の格言は?その2

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第14号 加入協会:日本証券業協会

本店 / 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL:06-6209-0821

東京店 / 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL:03-3667-7721

